

平成30年8月31日

関係各位

岐阜大学教育学部附属小学校

平成31年度使用教科用図書の採択について（報告）

平成31年度使用教科用図書の採択結果とその理由について、ご報告いたします。

教科 採択教科書	採択の理由（内容、資料、表記・表現など）
国語 光村図書	各単元に「たいせつ」が示されており、本単元で身につけたい力が分かりやすい。学年だけでなく6年間をつないでいくことで、つけたい力を螺旋的・反復的につけることができる。また、言語活動に仲間同士で意見を発表し合う場が設定されており、本校が力を入れている対話とも一致している。実際の写真や挿絵が的確であり、児童の学習意欲や想像を膨らませることに効果的であると考えます。
書写 光村図書	書写では「姿勢」や「筆の持ち方」、「書き方」などを理解してから書く力をつけることが重要になっているため、見開きで学習の内容を捉えることができ、重要となる内容が「たいせつ」という記号を使ってまとめてあることが、主体的に学習に取り組む姿を育むのに適している。正確に字を書くポイントに気付けるように、2年生「画のつき方と交わり方」では分かりやすい絵で違いが示されているため、それぞれの書き方を理解してから書くことができる。教科書の習字道具に収納できる大きさである。
社会 東京書籍	本校児童の実態として、課題から資料をもとにして調べて多様な考えをつくり出し、仲間と交流をしていく傾向にある。基礎から発展まで多くの資料があれば、児童の追究も幅広いものとなる。東京書籍の教科書は、見開きのページあたりの文章量や資料数が豊富であり、内容も基礎的なものから発展的なものまで掲載されているため、本校児童の実態に合っていると見える。

<p>地図</p> <p>帝国書院</p>	<p>本校では、資料をもとにして課題に対する自分の考えをつくり出し、仲間と交流をしていく。基礎から発展まで多くの資料があれば、児童の追究も幅広いものとなる。帝国書院の地図帳は、鳥瞰図や洪水への備え、特産品などの資料数が豊富であり、内容も基礎的なものから発展的なものまで掲載されているため、本校児童の実態に合っていると見える。また、見やすい色使いや正しい字体で表記されており、児童が学習を進めていきやすいものとなっている。</p>
<p>算数</p> <p>大日本図書</p>	<p>自分の考えを数学的な表現を用いて説明できることをねらったときに、数学的な表現を系統性を大切にしていることが適している。算数を統合的・発展的に考えることをねらったときに、算数・数学の論理や、その表現の一貫性を大切にしていることが適している。本時学んだことを振り返り、これからの学びにつなげていこうとする実態から、すべての学年の教科書が合冊であることが適切である。</p>
<p>理科</p> <p>東京書籍</p>	<p>字が大きく問題解決の過程が分かりやすい。岐阜県に関わる学習内容が多く取り上げられている。特に地学分野の岐阜県の写真が多く、子供たちが実際の生活から予想したり、学習したことを生活につなげたりすることができる。「考えよう」では、幾つかのグループの結果をもとに考察するようになっている。また、「説明しよう」では、学習したことを他のもの、場面に置き換えて考える事象が提示されている。この「考えよう」「説明しよう」は、本校の研究を進めるのに適している。</p>
<p>生活</p> <p>東京書籍</p>	<p>子どもたちが社会や自然と関わる中で、いろいろな気づきができるような言葉がいたるところにある。「たのしい あき いっぱい」では、夏の様子と比べる言葉と目の前にどんなものが広がっているのかという言葉がある。2年生が経営活動として行っている「野菜」に関わる単元では、種や苗についてなどていねいに記載されている。また、春から秋まででなく冬の野菜作りをしたいという動機付けのページがある。</p>

<p>音楽</p> <p>教育芸術社</p>	<p>本校では、題材で何を学ぶのかを明確にした指導計画を作成して授業を行っている。教育芸術社の教科書は、主題による題材構成により、学年ごとの流れに加えて、6年間を通して段階的、系統的に学習ができるよう題材を構成し、繰り返しの学習や学びの積み重ねによる学力の定着が図られるようにしていることから、本校の実態に合っている。また、音楽づくりや鑑賞の活動において、学ばせたい要素を焦点化し、感じたことを言葉や体で表現する活動が位置付けられており、子どもの感受が大切にされていることから、感性の育成にもつながると考える。</p>
<p>図画工作</p> <p>日本文教出版</p>	<p>本校の図画工作科が大切にしている「造形的な見方や考え方を働かせる」「新しい意味や価値をつくりだす」という視点で見たときに、作品写真だけではなく、そこに込めた思いや、思いを表現するための工夫を紹介する文が多数付記されている点がよい。2社を比較すると、「造形遊び」題材の掲載に差があり（3・4年上下で3題材）、造形遊びから「造形的な視点」の理解を進めていきたい本校研究には、特に適していると考ええる。その他、教科担任で授業を行わない場合でも、各分野の題材について、材料・用具、活動の具体的な姿、学習内容について記されている。題材で働かせたい代表的な技能が各ページで強調されている点も分かりやすい。また巻末に、子どもたちが読みながら技能を試したくなるような、思考する際のヒントになる資料が付属しており、指導事項やそれを助ける内容が充実していると考ええる。</p>
<p>家庭科</p> <p>開隆堂</p>	<p>本校の児童の実態として、家庭科の学習に対する意欲が高く、学習したことを家庭でも実践しようとする児童が増えつつある。開隆堂は、身に付けたことを生かした実践例（ソーイング等）や生活への応用事項の掲載数が多いため、児童の興味・関心をさらに伸ばし、生活を創意・工夫する力につながれると考えた。また、年度当初のガイダンスや安全面の指導の部分がわかりやすく活用しやすい構成になっている。本校は教科担任制で授業を行っており、学習ノート・プリント指導をしているため、開隆堂の形式が適している。</p>

<p>保健体育</p> <p>東京書籍</p>	<p>本校の実態として、健康安全にかかわる知識を習得しても、実生活になかなか結び付かないためにケガが多いことが挙げられる。また、広範囲から公共交通機関を利用して登下校をする児童も多い。学んだことを実生活へ結びつけるために、発問に対する記述欄を広くしてあったり、地域の保健活動が写真などを使って具体的に取り上げてあったりするため、本校の実態に合っている。見開き2ページで1時間の授業を展開できるようになっていること、考えを記述する場面が多いことから、児童が学習を振り返りやすい。</p>
<p>特別の教科 道徳</p> <p>光村図書</p>	<p>現代的な課題をユニットとして構成してあり、複数の教材、コラムを用いて重点的に指導ができる。他教科の学習や実生活と関連づけて、考えたり議論したりできるように工夫されている。様々なジャンルの題材が設定され、主体的な学びを促すように工夫されている。</p>